

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 5 区分
 【発行日】平成 27 年 4 月 9 日 (2015.4.9)

【公開番号】特開 2014-8834 (P2014-8834A)
 【公開日】平成 26 年 1 月 20 日 (2014.1.20)
 【年通号数】公開・登録公報 2014-003
 【出願番号】特願 2012-145654 (P2012-145654)
 【国際特許分類】

B 6 2 J 23/00 (2006.01)

B 6 2 J 99/00 (2009.01)

【F I】

B 6 2 J 23/00 E

B 6 2 J 39/00 L

B 6 2 J 39/00 G

【手続補正書】
 【提出日】平成 27 年 2 月 24 日 (2015.2.24)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 1 8
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 1 8】

請求項 3 に係る発明では、メインフレームカバーに、シート前方位置にて車幅方向内側へ凹む車幅方向凹部が形成されることにより、運転者は車幅方向凹部に膝を押し当てることができ、メインフレームカバーに対する足付き性が確保される。加えて、車幅方向凹部は、メインフレームカバー側部に設けられ、メインフレームカバーの前壁には影響を及ぼさないから、傾斜前壁部の面積を容易に拡大できる。傾斜前壁部の面積が拡大されると、より多くの走行風をパワーユニットへ流すことができるため、パワーユニットの冷却効果を一層高めることができる。したがって、足付き性を確保しながら、パワーユニットの冷却効果を一層高めることができる。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 6 2
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 6 2】

以上に述べた鞍乗型車両 10 のメインフレームカバー 40 R、L の作用を次に述べる。
 図 1 において、鞍乗型車両 10 が走行しているとき、走行風は、メインフレームカバー 40 R の傾斜前壁部 50 R に沿って流れる。

したがって、図 2 において、走行風は、傾斜前壁部 50 R の外縁の延長線 19 に沿って、矢印 (1) のように流れるため、エンジン 20 の上方を流れる風を、エンジン 20 に導くことができる。特に、矢印 (1) のように流れる走行風は、放熱フィンが形成されるシリンダブロック 36 に指向する。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 7 6
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

【 0 0 7 6 】

サイドカバー部 5 2 Lの内面に、車体前後方向に一定間隔でサイド縦リブ 1 3 1 L が設けられる。